

平成 29 年 8 月の解説（週間天気予報）

【8月の天候状況】

上旬は、台風第 5 号の影響で 5 日には奄美大島、喜界島、屋久島で記録的な大雨となるなど、東・西日本や奄美地方で大雨となった所があり、東日本日本海側の旬降水量はかなり多くなりました。太平洋高気圧に覆われた沖縄・奄美では晴れる日が多かったため、旬平均気温はかなり高くなりました。北日本太平洋側では、オホーツク海高気圧による北東からの冷たく湿った気流の影響で曇りの日が多く、旬間日照時間がかなり少なくなりました。

中旬は、オホーツク海高気圧による北東からの冷たく湿った気流の影響で曇りや雨の日が多かったため、北・東日本太平洋側で旬間日照時間がかなり少なく、北日本太平洋側を中心に気温が低くなりました。東・西日本では南からの湿った空気が入りやすく、また気圧の谷や寒気の影響で大気の状態が不安定となったため、大雨となった所がありました。沖縄・奄美では太平洋高気圧に覆われて晴れる日が多く、旬平均気温がかなり高くなりました。

下旬は、北・東・西日本の天気は数日の周期で変わりました。日本海にのびる前線に向かって南から暖かく湿った空気が入り込んだため、旬の中頃に北・東・西日本日本海側では大雨となった所があり、25 日には秋田県の雄物川（おものがわ）が 7 月に続き再び氾濫しました。日本の南海上では太平洋高気圧の勢力が強く、沖縄・奄美では晴れて気温が高い状態が続いたため、旬平均気温はかなり高くなりました。東・西日本では、南からの暖かい空気の影響により旬平均気温が高く、24 日には 152 地点で猛暑日となり、今年一番の多さとなりました。旬の終わりには大陸から冷たい空気の流れ込んだため、北日本を中心に気温の低い日が多くなりました。

月平均気温は、沖縄・奄美でかなり高く、西日本で高く、北・東日本で平年並でした。月間降水量は、東日本日本海側でかなり多く、西日本太平洋側で多くなりましたが、沖縄・奄美では少なく、北日本、東日本太平洋側と西日本日本海側では平年並でした。月間日照時間は、北・東日本太平洋側でかなり少なく、北・東日本日本海側で少なかった一方、沖縄・奄美ではかなり多く、西日本では平年並でした。

【8月の検証結果】

「降水の有無」の適中率（3～7 日目の平均）は、例年値^{（注）}より 1 ポイント高い 67% でした。北海道、東海、近畿、四国、九州北部、九州南部、沖縄の各地方では例年値を上回り、特に四国地方と九州南部地方では例年値よりも 13～16 ポイント高くなりました。一方、東北、関東甲信、北陸、中国の各地方では例年値を下回り、特に北陸地方では例年値よりも 14 ポイント低くなりました。最高気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年並の 2.3 で、九州南部地方と沖縄地方を除くすべての地方で例年値以下となりました。最低気温の予報誤差（2～7 日目の平均）は、全国平均では例年並の 1.6 でした。

（注）例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

【10月の週間天気予報の利用にあたって】

秋から冬にかけて日照時間が次第に短くなり、気温も急激に下がっていきます。10 月は秋晴れとなる日が多く、行楽の機会も増えますが、気温の変化が大きい時期でもありますので、週間天気予報を利用する際には天気だけでなく気温にも注意して下さい。また、北日本や本州の標高の高い山では雪が降ることもあります。週間天気予報で予報される気温は平野部を対象としていますので、平地は秋でも山は冬に近づいているということにもご注意ください。